

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な後期近代社会を生き抜くために、グローバルかつローカルな視点を持ち、新たな価値を創造する力と社会を生き抜く人間力を養い、社会をリードする人材を輩出する学校をめざす。

1. 育てたい生徒の資質は次の4つ

- | | |
|---|-----------------|
| ①流動化する社会の中でも「世の為、人の為」という原点になる志をもち、己を鍛える生徒 | (志を持ち、己を鍛える) |
| ②幅広い教養(リベラル・アーツ)を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒 | (知性を磨き、価値を創造する) |
| ③己を知り、社会を知り、世界を知り、人生を描くことが出来る生徒 | (己を知り、人生を描く) |
| ④人と繋がり、地域・社会と繋がり、世界と繋がる、心身ともに健全で規律ある生徒 | (人・社会・世界と繋がる) |

2. めざすべき教職員集団の4つの観点

- | | |
|---|-----------|
| ①常に「生徒のために」の原点を忘れず、新たな教育課題に果敢に挑戦する教職員集団 | (果敢に挑戦する) |
| ②互いに成長しあい、学びあい、切磋琢磨する教職員集団 | (切磋琢磨する) |
| ③同僚性に富み、互いに支えあい、強みを活かし、弱みを克服する教職員集団 | (同僚性に富む) |
| ④互いの役割分担を認め、相互理解するチーム力のある教職員集団 | (チーム力がある) |

2 中期的目標

1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。

(1) 進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

ア 授業アンケートのデータおよび自由記述にみられる生徒の生の声に真摯に向き合い、授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む
※学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(H30 年度肯定感 63.9%)「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(同 43.7%)を毎年3ポイントずつ引き上げ、2021 年度には、各項目を10ポイント近く向上させる。

(2) 社会とのトランジションを見据え、知識・技能の習得だけではなく、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう社会性を意識し、アクティブ・ラーニング型授業(以下、ALまたはAL型授業とする)を促進する。

ア 知識構成型ジグソー法をはじめ、現在開発されているAL型授業を積極的に取りいれ、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革に取り組む。
※学校教育自己診断の「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(H30 年度肯定感 58.4%)、AL型授業の実践アンケート「AL型授業を実践した」(H30 年度 45.6%)から毎年3ポイントずつ引き上げる。

(3) 自ら課題を見つけ探究心をもって主体的に学ぶ力を育てる。

ア クエスト・エデュケーション(以下QEとする)を中心とした探究的な学びを推進し、学校内外の授業以外の学びの場を提供することで、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的で探究的な学びを促進する。
※学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(H30 年度肯定感 49.2%)をH30 年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。QEに関する肯定感の現状(H30 年度 84.2%)を維持する

イ 朝の小テストを改善し、読解力の育成の一助とする。

※「朝の小テスト」は学力の向上や興味関心の向上に役立っている(H30 年度肯定感 58.7%)から毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 様々な学びの場を提供し、自学自習の力を養う。具体的には、①講習・補習の充実②AL型学習ができるラーニングcommons(以下LCとする)の利用③教育産業と連携したVOD型学習の推進及び進学講習の充実を図る。
※学校教育自己診断の「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(H30 年度肯定感 69.4%)「自習室・LCの開放は、学習時間の確保に役立っている」(H30 年度利用者肯定感 48.1%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。「VOD学習は、学力の向上に役立っている」を新設し、平成31 年度肯定感50%以上、毎年3ポイント以上引き上げ、2021 年度には60%以上の肯定感に引き上げる。

2. 高い志を持ち進路実現をするためのキャリア教育を充実する。

(1) 系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。

ア 総合的な学習の時間(FROM NOW)や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。
※学校教育自己診断の「ホームルームや『総合的な学習の時間= FROM NOW』などで進路や生き方について考える機会がある」(H30 肯定感 76.3%)を3年間で80%以上にする。

イ 個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にするキャリアカウンセリングを充実する。
※学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(H30 年度肯定感 55.7%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。

(2) 二つのコース間の切磋琢磨を促進し、進路実績の向上をめざす

ア 二つのコースの充実及びコース間の切磋琢磨を促進する。特にスタンダードコースのキャリア教育を進め、スタンダードコースを活性化させる。
※学校教育自己診断の「本校のコース(アドバンスト・スタンダード両コース)は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(H30 年度肯定感 71.3%)を毎年3ポイントずつ引き上げる。特に、同項目の両コース間の差を3年間で5ポイント以内(H30 年度アドバンストコースの肯定感ースタンダードコースの肯定感=12.3ポイント差)にする。

イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。

※合格者実人数： 2021 年度卒 国公立(25)人、関関同立近(150)人以上をめざす。(H30 年度卒 現役実人数：国公立(17)名、関関同立近(99)名)

3. 人と繋がり、社会と繋がり、世界と繋がる力の育成をめざす。
- (1) 自主活動を推進発展させる

ア 行事・クラブ活動などの自主活動を促進し、コミュニケーション能力、組織力、マネジメント力を養う。
※学校教育自己診断の自主活動関連の項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。
- (2) グローバル資質の育成を推進する。

ア 海外語学研修、留学生の受け入れなどを促進し、グローバル資質の育成を行う。
※学校教育自己診断の「国際理解教育に力を入れている」(H30 年度肯定感 63.9%) を 70%以上にする。
- (3) 地域連携強化によるローカル資質の育成の推進

ア 保護者、中学生徒、中学校教員への学校説明会の充実をはかり、H31 年度入試の志願倍率を今後も維持する。

イ 学校運営協議会の発足を受け、司馬遼太郎館との連携をはじめ、中河地地区の大学、公共施設、民間団体などとの連携を図り、コミュニティスクールをめざす。
※学校教育自己診断に「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」(H30 年度肯定感 50.12%) を、H30 年度肯定感より毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。
※学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」(H30 年度肯定感 77.3%) を維持する。
- (4) 自己を厳しく律する力と自尊心を育成する。

ア 挨拶指導・遅刻指導を促進する
※年間遅刻回数を 2000 以下にする (H30 年度 (2327) 件)

イ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図る。
※学校教育自己診断における「学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる」(H30 年度肯定感 64.0%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。
4. 教職員集団「チーム布施高校」の育成
- (1) 教育課題に果敢に取り組む教職員集団の育成

ア 新たな教育課題にチャレンジし、教職員間が切磋琢磨しながら、同僚性に富んだチームワークのある教職員集団の育成を図る。
※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」(H30 年度肯定感 56.3%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

イ 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。
※学校教育自己診断の関連項目を毎年3ポイントずつ引き上げる。

ウ 校内研修の開催、校外研修への参加、研究授業の実施を促進し、高大接続改革など新たな教育課題に対応できる教職員集団の育成を図る。
※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」(H30 年度肯定感 56.3%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

エ 運営委員会の活性化、ミドルリーダーの育成、若手の力量向上を図る。
※「運営委員会は、十分に機能している」(H30 年度肯定感 72.8%) を、H30 年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。また、「本校は計画的に人材育成を行っている」(H30 年度肯定感 62.5%) を、H30 年度の肯定感から毎年3ポイントずつ引き上げる。

オ 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。
※仕事の平準化、合理化に関する現状分析を行い、中期目標を設定すると共に、担任と担任外の仕事格差、教材の共有化を促進し、仕事の負担軽減を行う。
「教材の共有化」(H30 肯定感 37.5%) 「担任と担任外の仕事格差の縮小」(H30 肯定感 15.1%) を毎年3ポイントずつ引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 思考力・判断力・表現力を養い主体的に学ぶ力を育成する。	(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化	ア ・年2回の授業アンケートに自由記述を行い、生徒の声に真摯に向き合う。 ・授業見学、公開授業、研究授業を、教科を中心に組織的に取り組む。	ア 学校教育自己診断「学力のつく授業が多い」(肯定感 63.9%(H30))「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」(肯定感 43.7% (H30))を3ポイント上昇	
	(2) A L型授業の促進 ア A L型授業を取り入れ、授業改革に取り組む	ア 校内外の研修に参加・実施し、A L型授業の研究授業を実施する。	ア 学校教育自己診断「思考力・判断力・表現力を養う工夫をしている先生が多い」(肯定感 58.4%(H30))を3ポイント上昇	
	(3) 探究心をもって主体的に学ぶ力の育成 ア キャリア形成と関連付けた主体的な学びの促進	ア Q Eを実践すると共に、学校内外の授業以外の学びの場に積極的に参加し、学ぶことの興味関心をそだて、自己のキャリア形成と関連付けた主体的な学びを促進する。 イ 朝の小テストに改善し、読解力の育成の一助とする。	ア 学校教育自己診断「授業以外にも興味関心を持たせる学びの場がある」(肯定感 49.2% (H30))を3ポイント上昇 イ 学校教育自己診断「朝の小テストは学力の向上や興味関心の向上に役立っている」(肯定感 58.7% (H30))を3ポイント上昇	
	イ 「朝の小テスト」の改善実施		ウ 学校教育自己診断「補習や補講が生徒のニーズに沿って行われている」(肯定感 69.4% (H30))「自習室・L Cの開放は、学習時間の確保に役立っている」(肯定感 48.1% (H30))を3ポイント上昇	
	ウ 自学自習の力を養う	ウ ①講習・補習の充実 ②ラーニングコモンズの積極的活用 ③教育産業と連携したV O D型学習の推進④進学講習の充実		
2. 高い志を持つ進路実現をするためのキャリア教育を充実する。	(1) 進路実現の意識の醸成 ア F N等の充実	ア ・F N や進路別分野別説明会・大学見学・卒業生との対話集会等の充実を図る。 ・Q Eの充実及び定着を行い、キャリア形成の充実を図る。	ア ・学校教育自己診断「ホームルームや『F N』などで進路や生き方について考える機会がある」(76.3% (H30))を3ポイント上昇 ・Q Eに関する H30 年度肯定感 (77.8% (H30))の現状を維持する	
	イ キャリアカウンセリングの充実	イ キャリアカウンセリングを充実し、個々の生徒の学習状況・進路志望状況を把握し、進路実現への道筋を明確にする	イ 学校教育自己診断の「学力学習実態調査、実力テストや模試は、学習に取り組む態度を改善するために役立っている」(肯定感 55.7% (H30))を3ポイント上昇	
	(2) 進学実績の向上。 ア 二つのコース間の切磋琢磨の促進	ア 二つのコースのキャリア教育、特にスタンダードコースのキャリア教育に重点を置く。	ア 学校教育自己診断の「本校のコース (アドバンスト・スタンダード両コース) は、学習環境の充実や進路実現に役立っている」(肯定感 71.3% (H30))を3ポイント上昇。また両コースの肯定感の差を3ポイント縮める (H30 両コースの差は、12.3ポイント)	
	イ 進学実績の向上	イ 国公立大学及び難関私立大学の進学実績の向上を図る。	イ 実合格人数：国公立大学 (20) 名以上、関関同立近 (120) 名以上 (H30 年度卒 現役実人数:国公立 (17) 名、関関同立近 (99) 名)	

